

成長を 止める麻醉

「要するに」という言葉に潜む、価値観の罠





表面上の意図

話を整理し、相手を素早く理解しようとする賢さの象徴。



実際の機能

自己防衛。自分の古い価値観の枠組みを守るための防衛線。

「要するに」は、理解の言葉ではなく、価値観が更新されなくなるスイッチである。



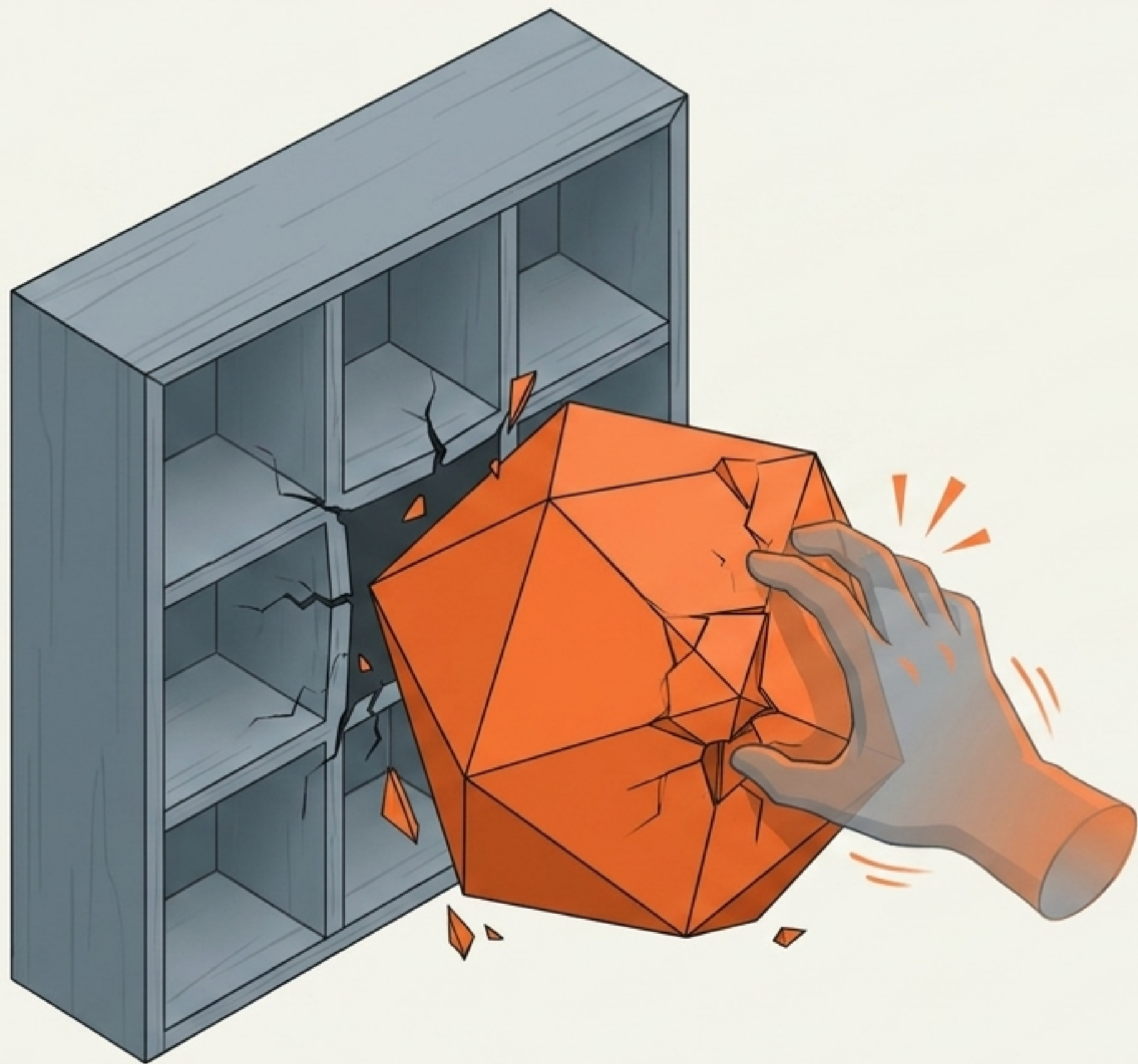
「ミスが減らすには、気合いではなく、ミスが起きる構造を見た方がいい」

THE
要するに
FILTER

「要するに、練習が大事ってことですよね」

理解ではなく、単なる「回収」と「矮小化」。

新しい視点を、自分がすでに知っている古い言葉に変換しているだけ。これでは新しい価値観は絶対に入っていない。



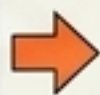
知らない話を 知らないまま 受け取れない病

- ・人間は「わからない状態」を不快に感じる。
- ・安心感を得るために、無理やり古い棚に押し込む。
- ・結果として、考え方は1ミリも変わらない。

**本当の学習とは、物事の見方や
「分類棚」そのものが作り変わることに。**

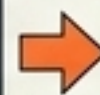


「メンタルの問題」



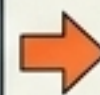
「練習設計の問題」

「センスの問題」



「観察不足の問題」

「努力不足」



「やり方が雑だった」

違和感こそが、成長の入り口。

伸びない人

伸びる人

	伸びない人	伸びる人
初期反応	早くまとめて安心したがる	「違和感」を保留し、耐える
内なる問い	「要するに何か？」	「今までの理解とどこが違うか？」
情報処理	既存の言葉へ戻す	古い自分を壊す
最終結果	価値観の保存	価値観の更新

現場での罫：細部の消滅

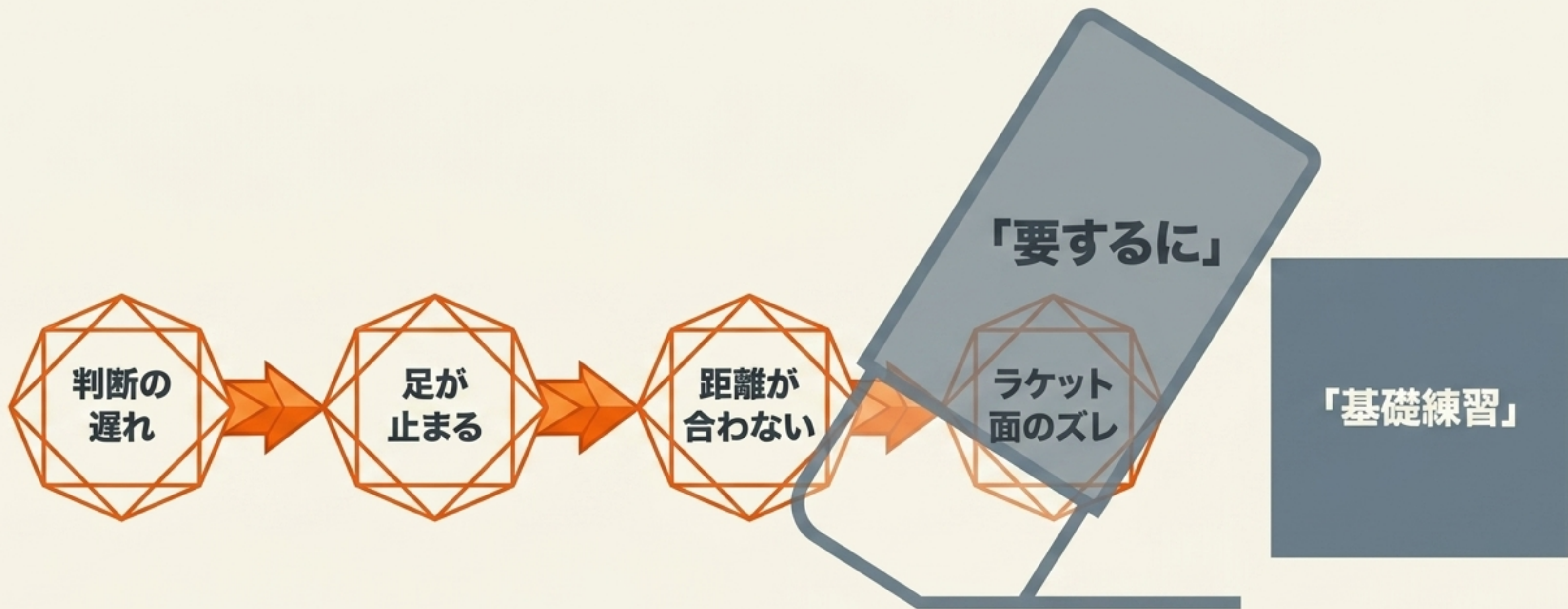


「要するに」



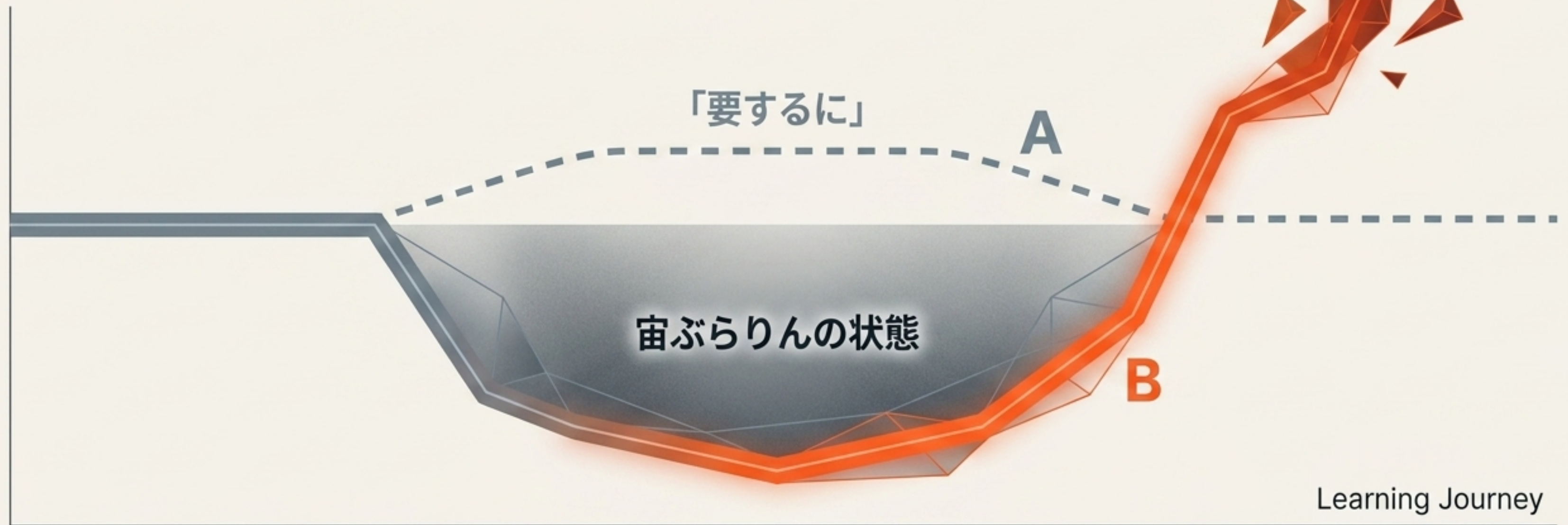
「解像度の高い分析」

指導者の新しいアドバイスを「要するに、気合いですね」「要するに、足を動かさせてことですね」と変換した瞬間、具体的な変化を起こすための解像度が失われる。



細部が消えれば、上達のための因果関係も消滅する。

「わからない」に耐える力



成長するためには、早くまとめて安心したい衝動を抑え、
この不快な「宙ぶらりんの状態」に少しの間耐える力が必要。



「要するに何か？」

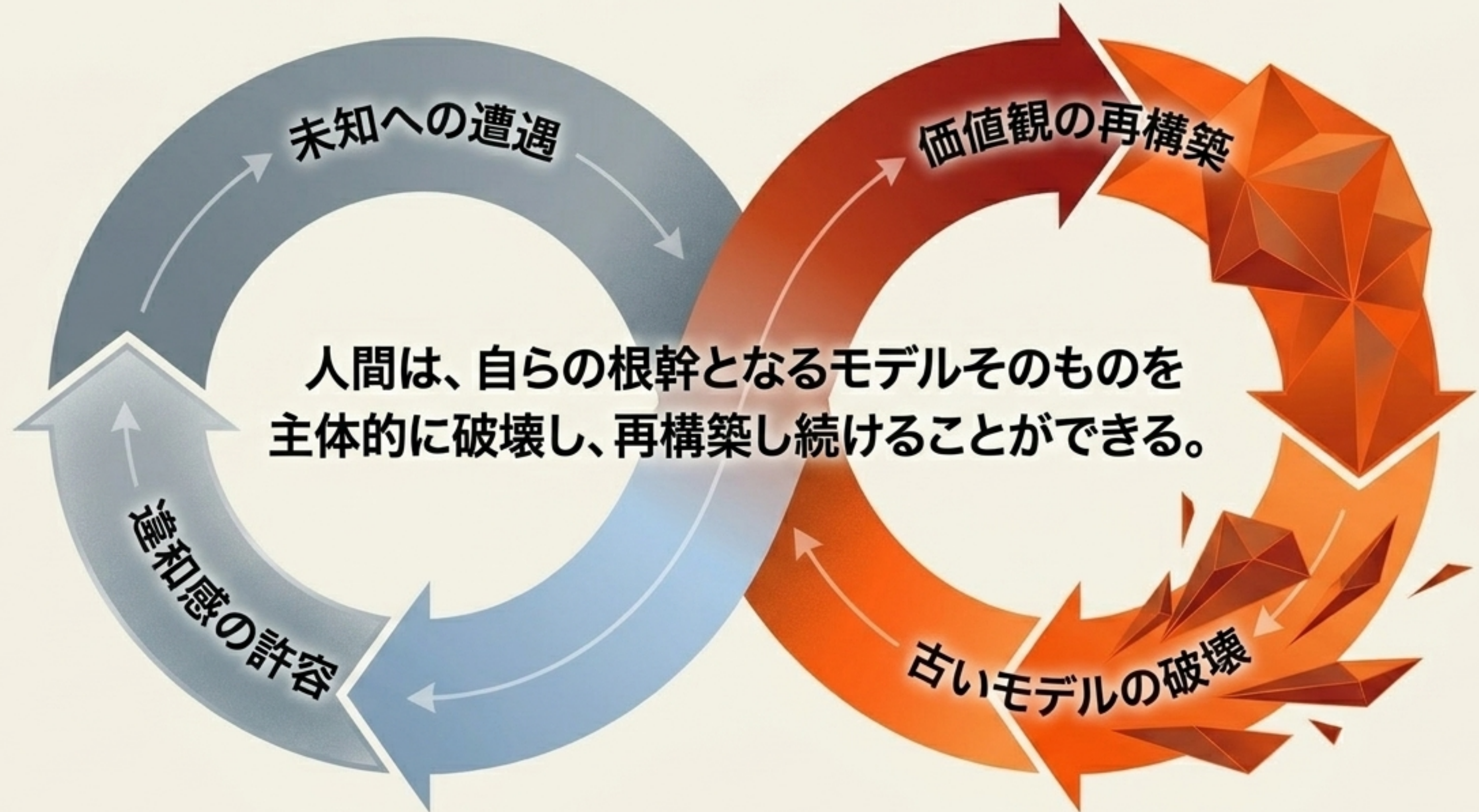


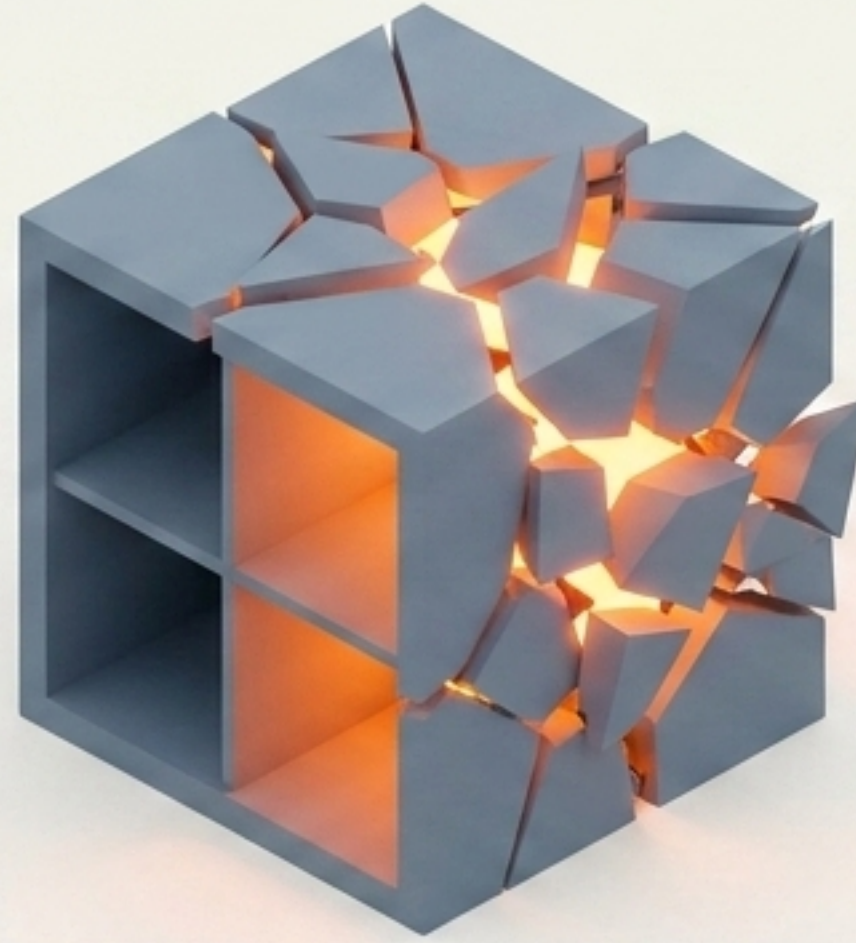
「今までの自分の理解と、どこが違うのか？」

ここに着目できる人だけが、成長の壁を突破できる。

知っている言葉を増やすのではなく、いつもの言葉でまとめると何が消えてしまうのかを考える。

知性の真骨頂：価値観のアップデートループ





「“わかった気”は、成長を止める麻醉である。」

伸びない人は、新しい話を古い言葉に戻す。

伸びる人は、新しい話で古い自分を壊す。